



第4回理事会（10月17日）

青木理事長が議長となり、議案の審議に入った。

はじめに、報告事項として「公益社団法人日本水道協会の会務について」を報告した。

続いて議案の審議に入り、第1号議案「公益社団法人日本水道協会第103回総会の運営について」、第2号議案「会員の入会について」が上程され、審議の結果、原案のとおり決定した。



令和5年度第4回理事会

令和5年度全国会議〔第103回総会・水道研究発表会〕

（10月18日～20日 於：東京ビッグサイト）

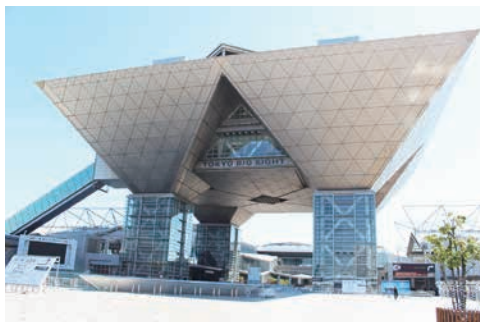
～1日目（10月18日）～

はじめに、オープニングセレモニーとして、本協会会長の小池東京都知事、濱地厚生労働副大臣、船橋総務大臣政務官、滝沢水道研究発表会論文審査等合同会議委員長、北尾日本水道工業団体連合会会長によるテープカットを行った。

次に、特別対談として、小池東京都知事と村井宮城県知事による、水道事業の将来に向けた災害対策や経営のあり方などに関する対談を行った。

続いて、開会式において、日本水道協会及び開催地を代表して小池東京都知事より挨拶があった。

続いて、厚生労働大臣（濱地厚生労働副大臣代読）、船橋総務大臣政務官、国土交通大臣（こやり国土交通大臣政務官代読）、国定環境大臣政務官、宇田川東京都議会議長、北尾日本水道工業団体連合会会長より来賓祝辞があった。



東京ビッグサイト



オープニングセレモニー



特別対談



開会式



開催地代表挨拶：
小池東京都知事



厚生労働大臣祝辞：
濱地厚生労働副大臣



総務大臣政務官祝辞：
船橋総務大臣政務官



国土交通大臣祝辞：
こやり国土交通大臣政務官



環境大臣政務官祝辞：
国定環境大臣政務官



祝辞：宇田川東京都議会
議長



祝辞：北尾日本水道工業
団体連合会会長

続いて、表彰式において、厚生労働大臣表彰が行われ、濱地厚生労働副大臣より、尾根田勝氏他39名の受賞者に対し表彰状が送られた。これに対し厚生労働大臣表彰受賞者を代表して磯部善信氏より謝辞が述べられた。

続いて、日本水道協会会長表彰が行われ、青木理事長より、功労賞として菊池修一氏他9名、特別賞として佐藤清和氏他77名、有効賞として川勝智氏他2名、勤続賞として松澤峰矢氏他729名、水道イノベーション賞として東京都水道局他2団体に対して表彰状が贈られた。これに対し会長表彰受賞者を代表し、今川眞氏から謝辞が述べられた。

続いて、水道イノベーション賞を受賞した各団体より、事例発表が行われた。



厚生労働大臣表彰



日本水道協会会長表彰（功労賞）



日本水道協会会長表彰（特別賞）



日本水道協会会長表彰（有効賞）



日本水道協会会長表彰（勤続賞）



日本水道協会会長表彰（水道イノベーション賞）



水道イノベーション賞事例発表

休憩後、定款の定めにより開催地の西山東京都公営企業管理者が議長となり議案の審議に入った。

はじめに、第1号議案「公益社団法人日本水道協会運営会議委員の選任について」が上程され、審議の結果、原案のとおり決定した。

次に、第2号議案「会員提出問題について」が上程された。

はじめに、『Ⅰ. 防災・減災、国土強靱化』に関して、東日本大震災関係として問題1「放射性物質に係る対応の推進及び東京電力福島第一原子力発電所の事故を原因とする損害賠償」、災害対策関係として問題2「水道施設の災害対策に対する行財政支援等」、問題3「防災・減災、国土強靱化のための持続的かつ安定的な行財政支援」、問題4「非常時における電力及び通信ネットワークの確保」についてが上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、『Ⅱ. 水道の基盤強化』に関して、新型コロナウイルス感染症関係として問題5「新型コロナウイルス感染症による影響に係る水道事業経営への支援」、物価高騰関係として問題6「電気料金等の高騰に対する支援制度の拡充」、補助関係として問題7「水道事業に対する財政支援の拡充及び要件の撤廃等」、問題8「水道施設の更新・再構築事業に対する新たな財政支援体制等の確立」、問題9「簡易水道事業統合等に対する財政支援」、問題10「省エネルギー・再生可能エネルギー設備の導入促進に向けた柔軟な制度運用」についてが上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、『Ⅲ. 安定・安全の確保』に関して、水源関係として問題13「安定水源の確保及び水源施設における堆積土砂対策等の推進」、問題14「水利権制度の柔軟な運用」、問題15「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針への対応」、問題16「特定多目的ダム供用開始後に要する利水者負担額の軽減」、水質関係として問題17「水道水源における水質保全対策及び水質事故の発生防止の強化等」についてが上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、『Ⅳ. 水道行政移管』に関して、問題18「水道行政の移管」についてが上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。



議長：西山東京都公営企業管理者



会員提出問題提案理由説明

最後に、『V. その他の重要事項』に関して、問題19「地下水利用等による専用水道に係る法整備及び対応」、問題20「配水管等の耐用年数の見直し」、問題21「電磁式を含む水道メーターの検定有効期間の見直し」、問題22「塗膜に含まれる低濃度ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処理等」、問題23「市境が複雑に入り組む地域における給水の柔軟な対応」、問題24「インボイス制度導入後の税額控除制度」についてが上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

続いて、名倉厚生労働省健康・生活衛生局水道課長並びに橋本総務省自治財政局公営企業経営室長から行政施策説明があった。

続いて、次年度全国会議開催地の決定について、全国会議の開催地は、北海道地方支部から九州地方支部までの持ち回りとなっているが、令和2年度第4回理事会において、令和4年度は中部地方支部、令和5年度は関東地方支部、令和6年度は関西地方支部とし、以降は順番に持ち回ることが決定していることから、次年度開催地について、関西地方支部から神戸市を推薦いただいていること等を事務局から報告し、報告のとおり満場一致で神戸市に決定した。



次期全国会議開催地代表挨拶：
藤原神戸市水道事業管理者

なお、同日午後から水道研究発表会が11部門に分かれて開催され、発表数は事務43、計画55、水源・取水10、浄水65、導・送・配水117、給水装置17、機械・電気・計装21、水質60、リスク管理・災害対策50、脱炭素化19（新設）、英語11、計468編の発表が行われた。



水道研究発表会の様子

～2日目（10月19日）～

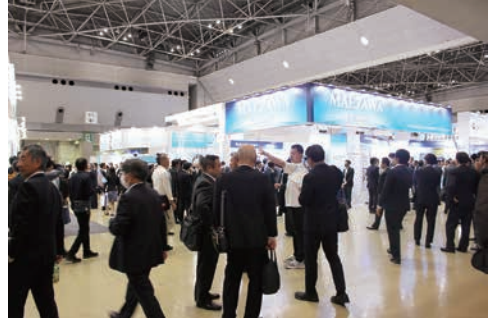
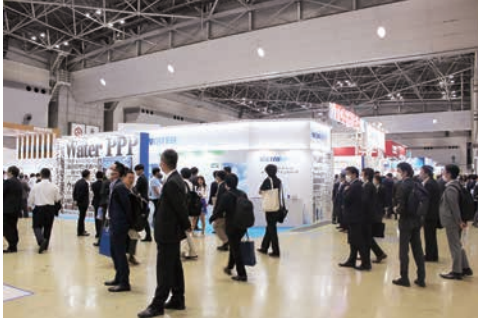
シンポジウムとして、「大災害に備えたインフラの取組み～関東大震災から100年～」を開催した。シンポジウムでは、コーディネーターに東京都市大学教授の長岡裕氏、パネリストには東京都水道局浄水部長（特命担当部長兼務）の橋本英樹氏、東京都下水道局計画調整部長の巖岩滋之氏、東京電力ホールディングス株式会社経営企画ユニット総務・法務室防災グループマネージャー部長の光田毅氏、東京ガスネットワーク株式会社防災・供給部部長の米村康氏をお迎えし、基調講演や意見交換などを行った（速記録は本誌2月号に掲載予定）。



シンポジウムの様子

水道研究発表会と並行し、19日と20日に事務局設定2コースに分かれ東京都の水道施設等を視察した。

また、会期中、開催地並びに次年度開催地のPRコーナー、日本水道工業団体連合会による水道展等が開催され、多数の見学者で賑わった。



2023東京水道展



PR コーナー

水道技術管理者資格取得講習会（オンライン第1回：10月2日～10月24日）

水道法施行規則第14条第3号による登録機関として、オンライン第1回：89名の参加を得て、「水道行政」、「公衆衛生・衛生管理」、「水道経営」、「水道基礎工学概論」、「水質管理」、「水道施設管理」について15日間の学科講習を実施した。

なお、学科講習修了者は、この後に「水道施設の技術的基準を定める省令第5条」に適合するろ過設備を有する水道施設において、15日間の実務講習を行う。

配管設計講習会（関東会場第1回：10月18日～20日、北海道会場：10月25日～27日、九州会場第1回：10月25日～27日）

水道事業体及び民間企業等において配管設計の経験が少ない水道技術者の方々135名（関東会場第1回：49名、北海道会場：36名、九州会場第1回：50名）の参加を得て、「水道の課題と設計業務」、「配管設計・積算の基礎知識」、「製図の基本」、「管路（GX形）の製図演習」、「積算の基本」、「管路（GX形）の積算演習」について研修を実施した。

水道技術管理者研修会（第2回：10月26日～27日）

水道技術管理者または管理者を補佐する方々73名の参加を得て、「水道事業を取り巻く環境の変化」、「水道水質管理に関する最近の動向」、「水道事業における危機管理対策－震災予防対策～震災応急対策－」について研修を実施した。

また、特別講演として和歌山市企業局水道工務部長・水道技術管理者の前野郁人氏により「六十谷水管橋崩落事故から復旧工事完了まで」を実施した。

第1019回会誌編集委員会（10月30日）

本誌11・12月号の編集方針、投稿原稿の査読等について審議を行った。



第188回水道 GLP 認定委員会（10月31日）

水道 GLP 認定について審議した結果、株式会社安全性研究センター（JWWA-GLP120）の認定更新を決定した。

また、長崎市上下水道局（JWWA-GLP047）、山形市上下水道部（JWWA-GLP048）、一般社団法人埼玉県環境検査研究協会（JWWA-GLP097）、一般社団法人新潟県環境衛生中央研究所（JWWA-GLP129）、一般財団法人千葉県薬剤師会検査センター（JWWA-GLP132）及び公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構（JWWA-GLP134）の認定維持、並びに愛知県水質試験所（JWWA-GLP033）、群馬県企業局（JWWA-GLP076）、盛岡市上下水道局（JWWA-GLP078）及び尼崎市公営企業局（JWWA-GLP124）の認定延長を決定した。

水道事故防止研修会（東京会場：11月1日～2日）

浄水場の運転・維持管理に従事する技術職員の方々44名の参加を得て、労働災害及び事故の防止に資すること、水道管路及び浄水場等における事故の未然防止や職員の危機管理対応力の向上等を目的として、「浄水場におけるリスクアセスメント」、「水道事業に係わる事故事例と再発防止策」、「水道事業における危機管理」についてディスカッションを中心とした研修を実施した。ディスカッションではグループごとに事故の原因や再発防止対策等について、講師が用意した事例を基に討議を行った。